

アカマツ

令和7年度 特別号

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日に6年生で実施いたしました「全国学力・学習状況調査」の結果報告書が北海道教育委員会より公表されました。報道等でご覧になられた方も多いと思います。



本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること等を目的として、毎年、4月に小学6年生と中学3年生を対象にして実施されています。

本年度、調査対象となった教科は、「国語」「算数」「理科」の3教科で、いずれも複合的に学力を調査する問題形式となっており、記述式の問題が含まれています。

今回、本校の実施結果から、現状や課題を分析いたしました。

分析を踏まえ、本校の教育活動を充実させ、課題の克服と子供達に身につけさせたい資質能力を育てていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



【総評】

全国平均よりも、無回答率が低く、テストに対して真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。

○成果が見られた点 ●課題が見られた点 ☆今後の方策

【国語】

全国平均正答率よりもやや低い結果となりました。

記述式の問題での正答率が低く、これからの課題になります。

- 「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題」の正答率が高く、人の話を注意深く聞くことができる資質能力が身に付いているという結果となりました。
- 目的や意図に応じて、「日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題」の正答率が低かったです。
- ☆今後、「何のために何を伝えたいのか、何を知りたいのか」等を授業の中で明確に示し、話す内容や順序を工夫できるように指導していくとともに、聞き取った内容をメモで書くことで整理できるようにしていきます。



【算数】

全国平均よりもやや低い結果となりました。

国語同様、記述式の問題での正答率が低めです。

- 「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問題での正答率が高く、グラフや資料の読み取りができる児童が多いようです。

- 式だけで解答するのではなく、言葉による説明を求められている設問では、計算はできるが、意味を理解できていないことがあるということがわかりました。

- ☆今後、計算ドリルだけでなく、文章題にも多く当たり、イメージをもって、問題を解く練習をしていきます。



【理科】

全国平均正答率よりも高い結果となりました。

- 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているか聞く設問において、正答率が低くなりました。3学年での履修であることや、単元を横断した問いであったことが考えられます。

- ☆今後、振り返りの学習を丁寧に行ったり、自然の事物・現象と知識を関係づけたりし、理解を深めることの大切さについて意識できるように指導していきます。



【児童質問紙】

- 朝食を取ることや決まった時間に起床すること、就寝することが習慣になっている児童が多い。

- 「自分にはよいところがある」「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「将来の夢や目標目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」という質問では9割以上の児童が肯定的な回答をしていた。

- 「理科の授業内容はよくわかりますか」という質問では全員が「よくわかる」と答えていた。

- 半数以上の児童の学校以外の学習時間が1時間未満になっています。

- 授業内容については、「よくわかる」が大半を占めていますが、得意かどうかを問われると、低い結果になっています。

- ☆「家庭学習のしおり」等を活用したり、計画的な学習への取組について、生活リズムチェックシートやLSシートを利用しながら指導していきます。また、機会を捉えて、家庭と協力して指導進めていきます。

- ☆児童が学習に自信をもつことができるように、ミニテストやドリル練習など、客観的に自分の力を評価できる取組を進めます。



どんな問題が出たかご覧になりたい方は
こちら



<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>